



**日本ピラー工業株式会社**

NIPPON PILLAR PACKING CO., LTD.

2018年3月期 第2四半期  
決算説明会

**日本ピラー工業株式会社**  
(証券コード：6490)

2017年12月



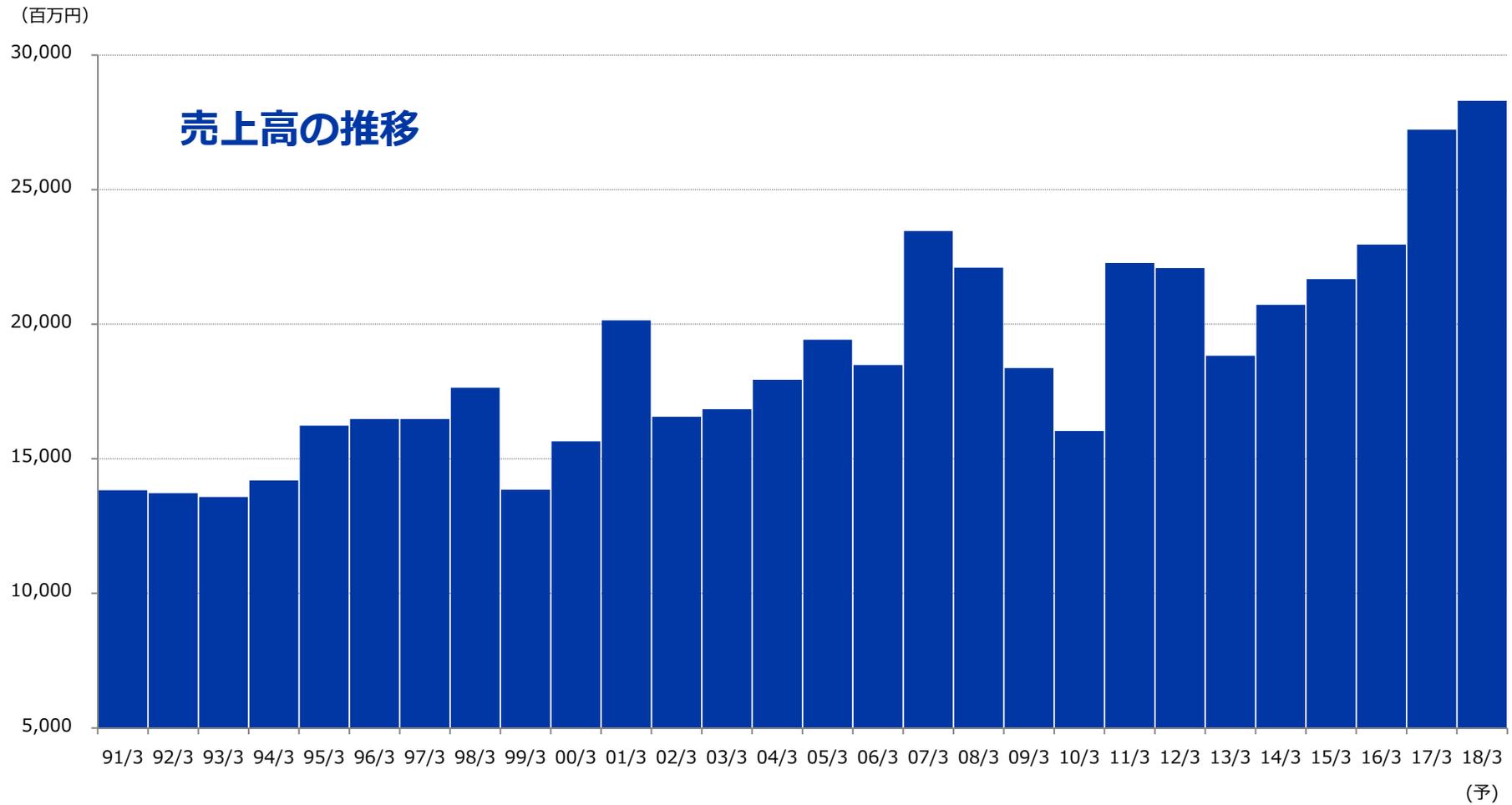
流体制御技術で地球環境と社会の明日に貢献する

**1. 事業概要、決算ハイライト**

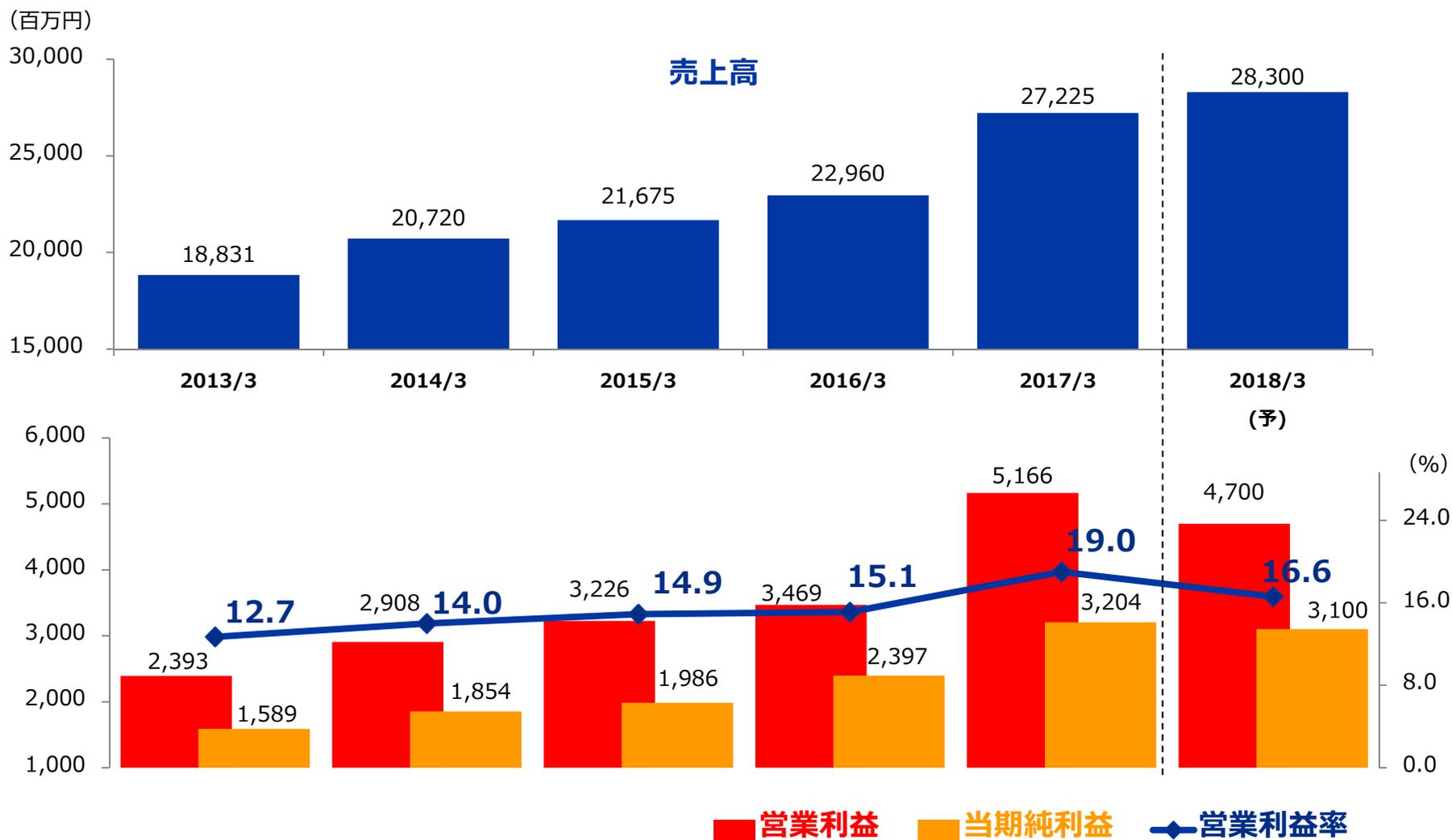
**2. 2018年3月期第2四半期/決算概要  
および 2018年3月期/業績見通し**

**3. 中期経営計画「BTvision19」について**

**(ポイント) 過去20年以上にわたり安定的に売上を拡大**



(ポイント) 高水準な営業利益率を維持



## 社名の由来



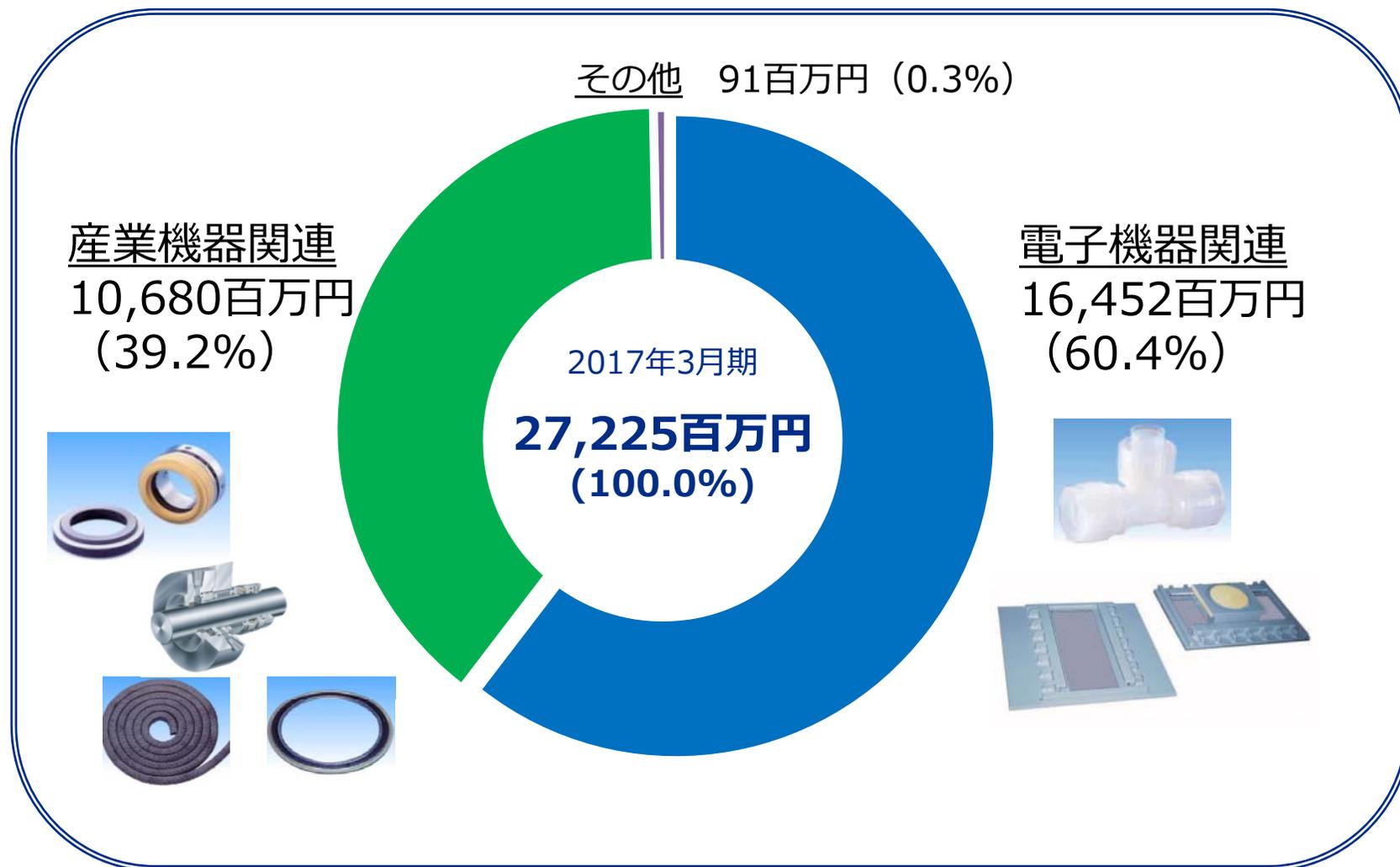
船舶の蒸気漏れを防ぐシール製品として、創業時に開発した「ピラーパッキンNo.1」の形状が、柱状 (=PILLAR)であったことから、日本ピラー工業と命名されています。

創 立	大正13年（1924年）
代 表 者	代表取締役社長 岩波清久
株 式	東京証券取引所 市場第一部（証券コード：6490）
資 本 金	49億66百万円
事 業 内 容	流体制御関連機器製品の製造販売
従 業 員 数	753名（連結：2017年9月末現在）
売 上 高	272億25百万円（連結：2017年3月期）

	2017年3月期 1-2Q累計	2018年3月期 1-2Q累計		
	実績 (百万円)	実績 (百万円)	差額	前年度比(%)
売上高	12,391	<b>13,975</b>	+1,583	+12.8
営業利益	2,042	<b>2,288</b>	+245	+12.0
経常利益	1,998	<b>2,318</b>	+320	+16.0
当期純利益	1,138	<b>1,540</b>	+401	+35.3

セグメント別				
	2017年3月期 1-2Q累計	2018年3月期 1-2Q累計		
	実績 (百万円)	実績 (百万円)	差額	前年度比(%)
<b>産業機器関連事業</b>				
売上高	5,135	<b>5,064</b>	△70	△1.4
営業利益	807	<b>703</b>	△104	△12.9
<b>電子機器関連事業</b>				
売上高	7,206	<b>8,865</b>	+1,658	+23.0
営業利益	1,206	<b>1,610</b>	+403	+33.5

# セグメント別売上高 (2017年3月期)



当社は「**流体の漏れを止める技術**」を生かした流体制御関連機器メーカーです。高機能シール製品を中心に、産業構造の変化にあわせて独自技術を応用した高機能製品への展開を行っており、幅広い産業向けに貢献しております。

## 当社のセグメント区分

### 産業機器関連事業 (シール関連製品)

素材技術

- ・ 繊維
- ・ 金属

材料技術

設計技術

加工技術

マーケティング  
(用途展開)

耐熱性

耐圧性

耐摩耗性

耐薬品性

純粋性

低摩擦特性

メカニカルシール(MS)



グランドパッキング(GP)



ガスケット(VG)

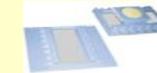


ピラフロン(PF)

半導体・液晶分野



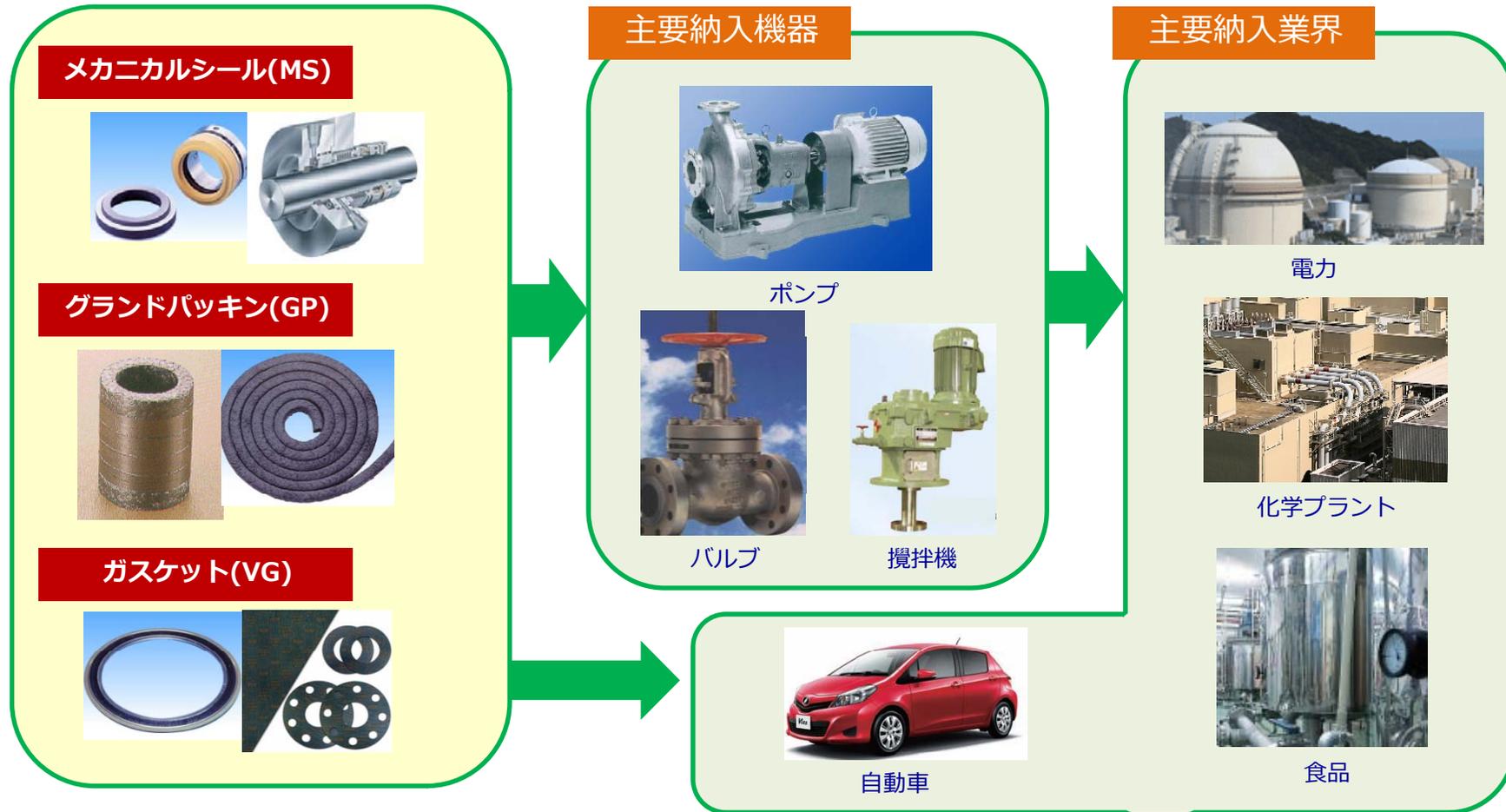
建築分野



### 電子機器関連事業 (樹脂関連製品)

樹脂特性  
の応用

# 産業機器関連事業(シール関連製品)の主な納入先





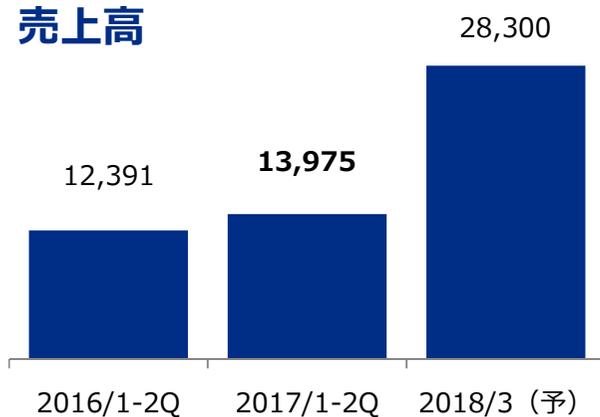
## 1. 事業概要、決算ハイライト

## 2. 2018年3月期第2四半期/決算概要 および 2018年3月期/業績見通し

## 3. 中期経営計画「BTvision19」について

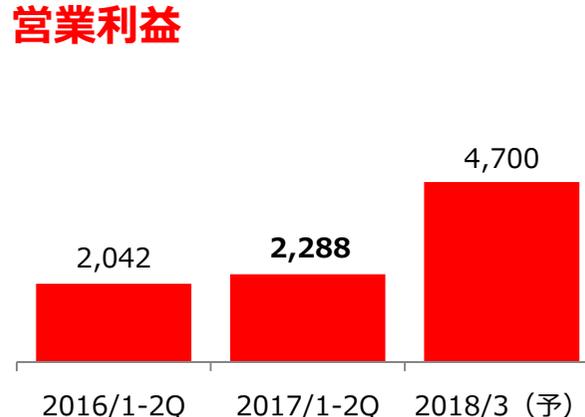
(単位：百万円)

## 売上高



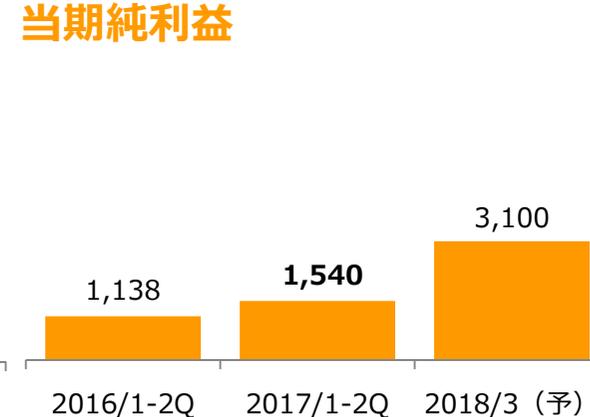
2016/1-2Q - 2017/1-2Q  
差額：+1,583 前年度比+12.8%

## 営業利益



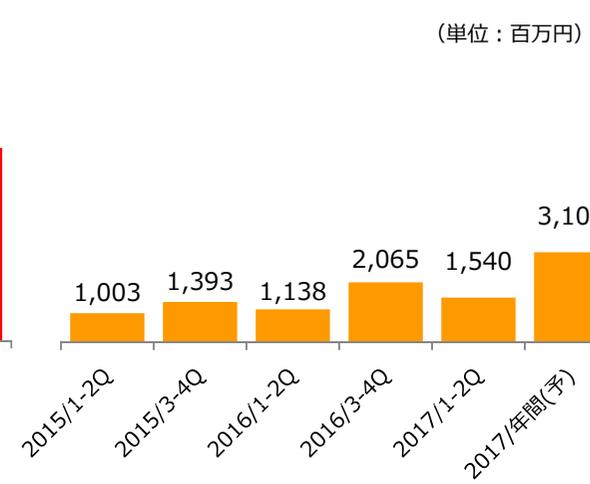
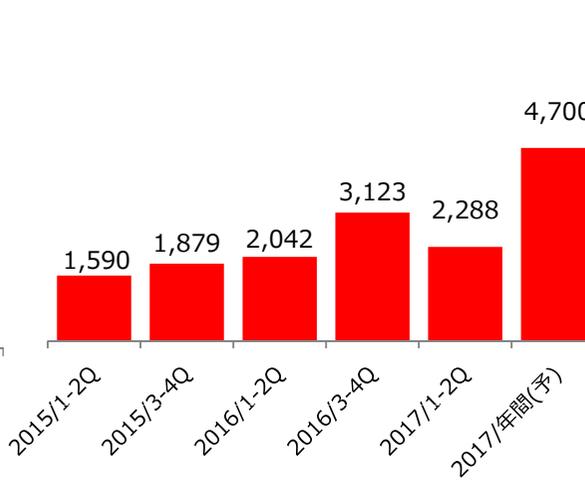
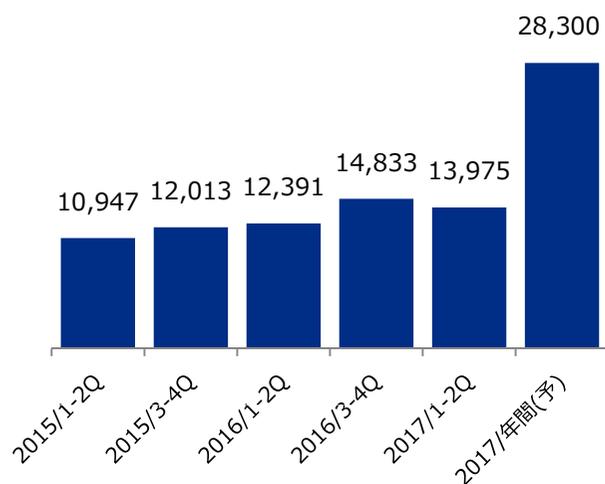
2016/1-2Q - 2017/1-2Q  
差額：+245 前年度比+12.0%

## 当期純利益



2016/1-2Q - 2017/1-2Q  
差額：+401 前年度比+35.3%

(単位：百万円)

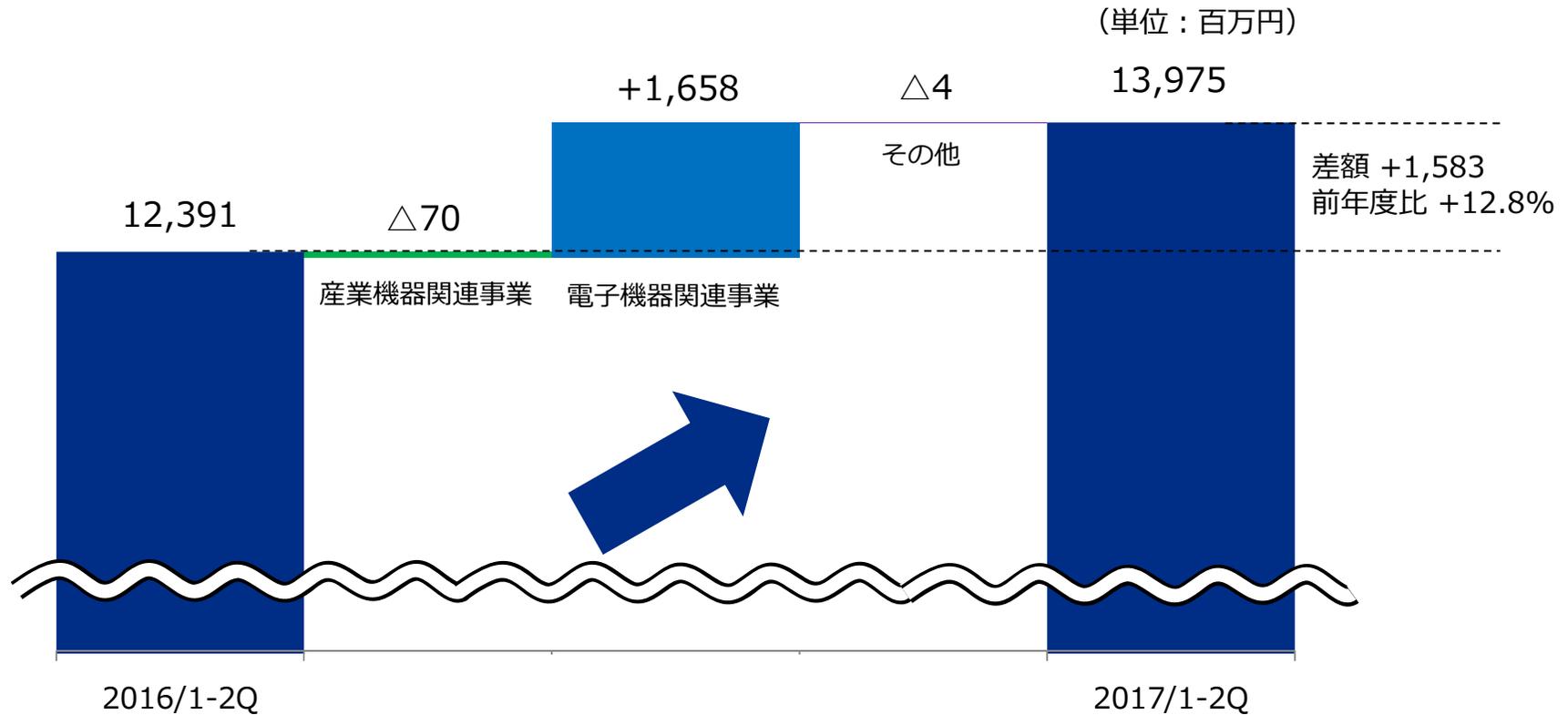


## 2018年3月期第2四半期 決算概要

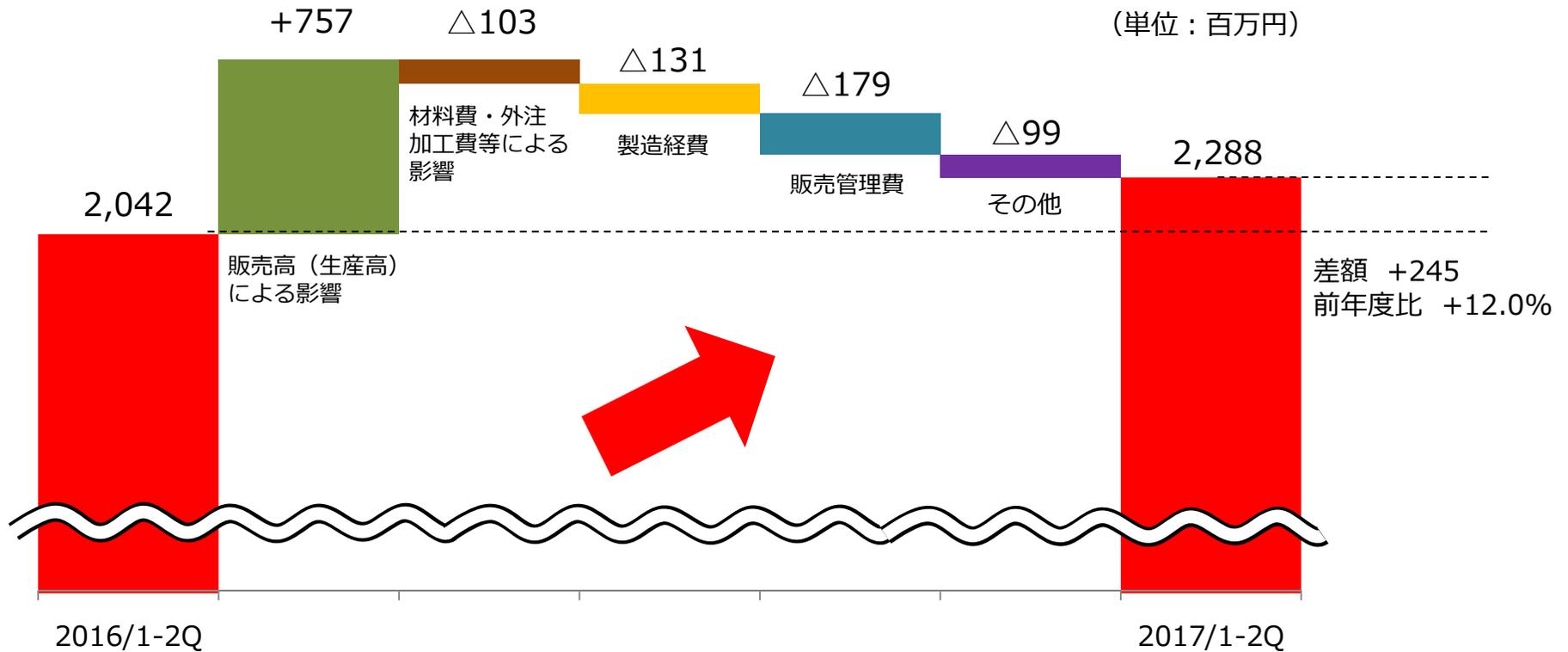
	2017年3月期 1-2Q累計	2018年3月期 1-2Q累計		
	実績 (百万円)	実績 (百万円)	差額	前年度比(%)
売上高	12,391	<b>13,975</b>	+1,583	+12.8
営業利益	2,042	<b>2,288</b>	+245	+12.0
経常利益	1,998	<b>2,318</b>	+320	+16.0
当期純利益	1,138	<b>1,540</b>	+401	+35.3

セグメント別				
	2017年3月期 1-2Q累計	2018年3月期 1-2Q累計		
	実績 (百万円)	実績 (百万円)	差額	前年度比(%)
<b>産業機器関連事業</b>				
売上高	5,135	<b>5,064</b>	△70	△1.4
営業利益	807	<b>703</b>	△104	△12.9
<b>電子機器関連事業</b>				
売上高	7,206	<b>8,865</b>	+1,658	+23.0
営業利益	1,206	<b>1,610</b>	+403	+33.5

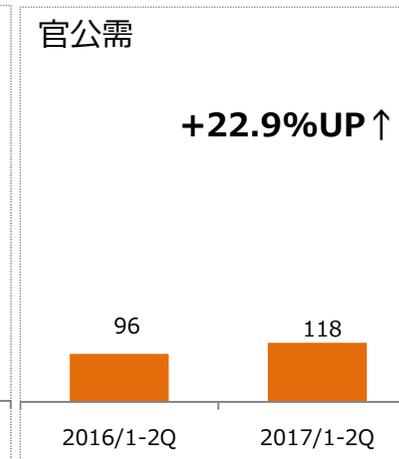
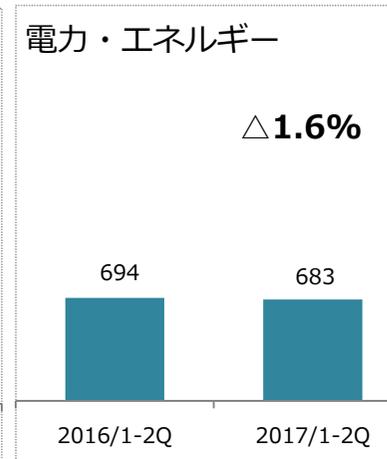
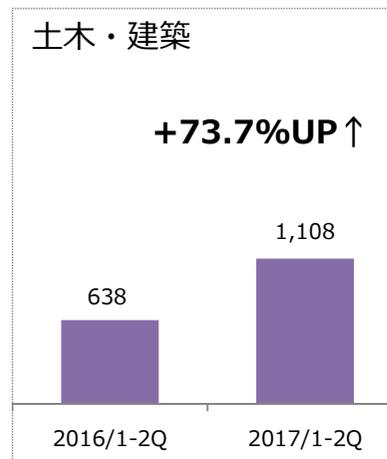
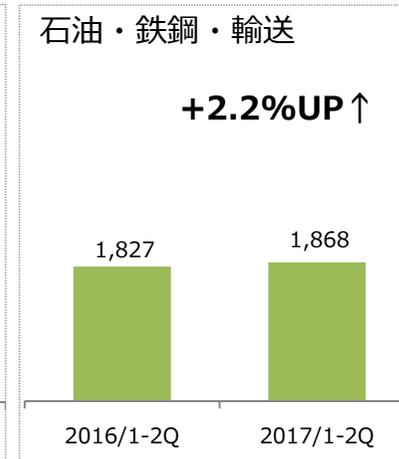
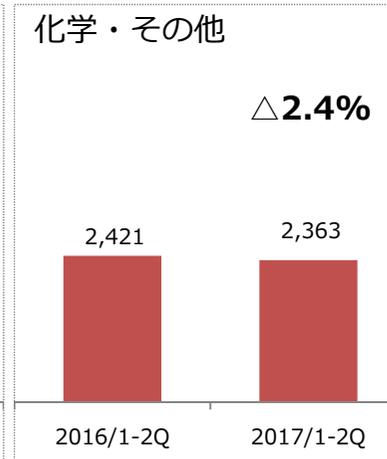
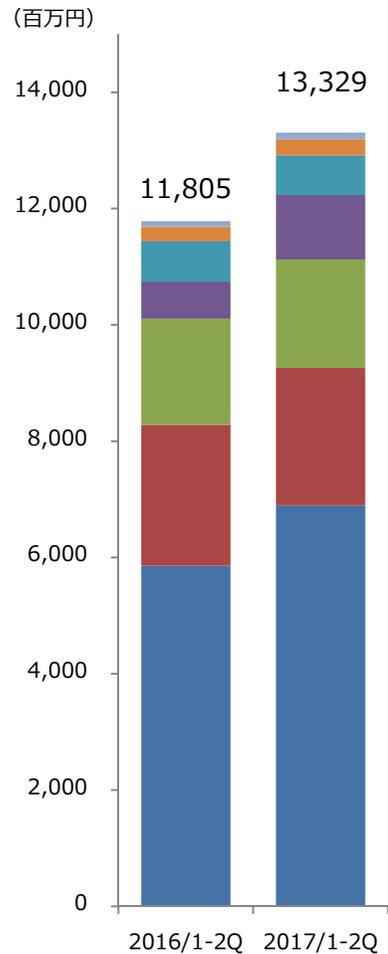
**半導体業界の活況により、電子機器関連事業が大幅増加**



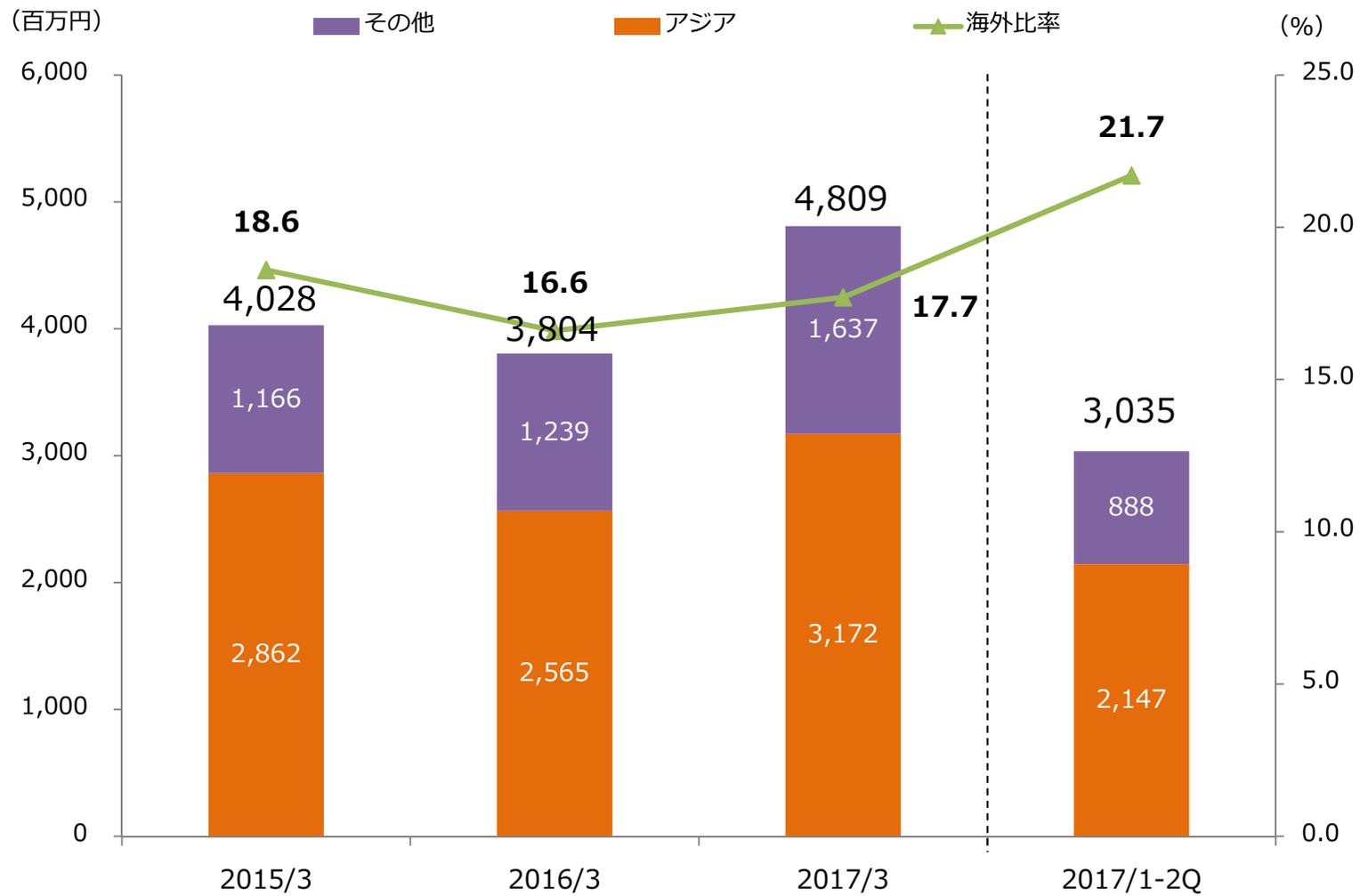
売上高増加により、前年度以上の利益を確保



# 市場別 売上高実績 (参考：単体)



# 海外売上高実績

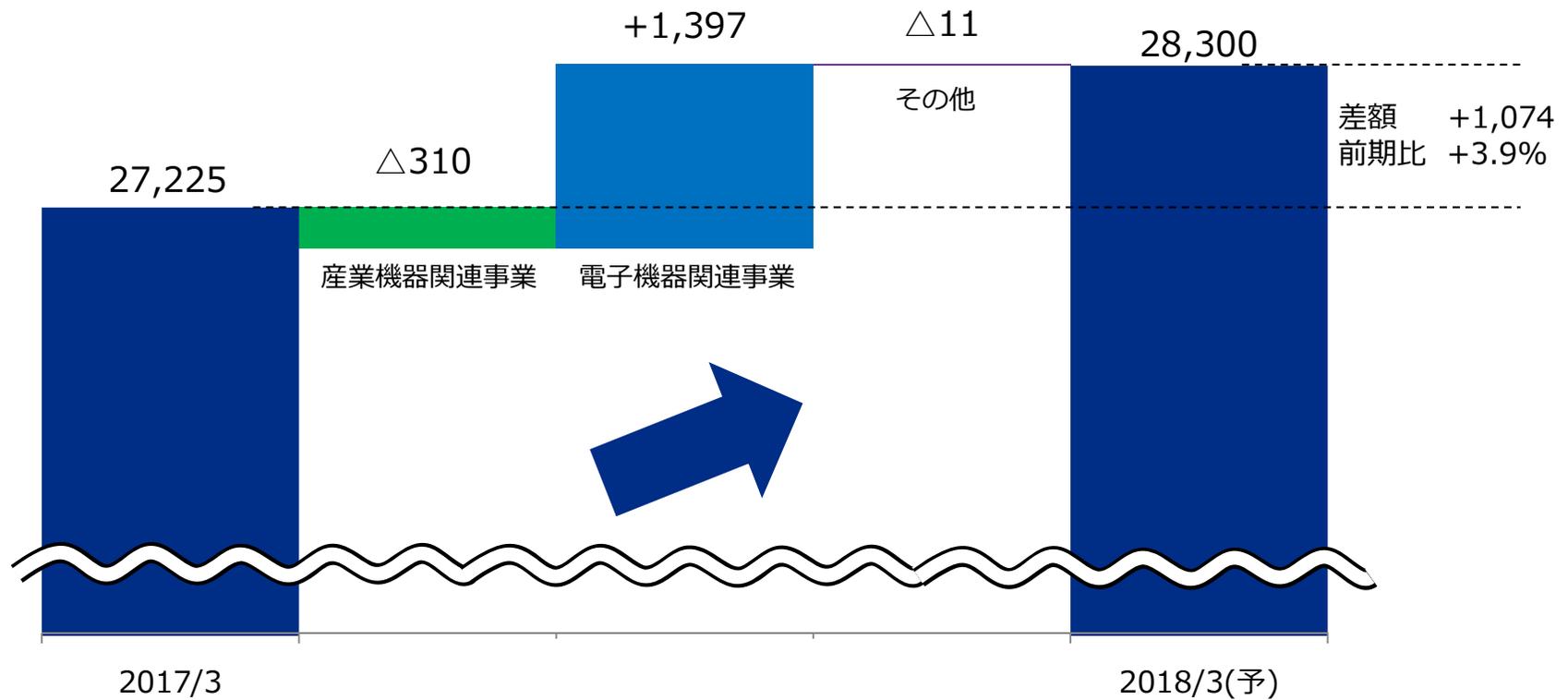


	2017年3月期	2018年3月期 (予)		
	実績 (百万円)	実績 (百万円)	差額	前期比(%)
売上高	27,225	<b>28,300</b>	+1,074	+3.9
営業利益	5,166	<b>4,700</b>	△466	△9.0
経常利益	5,255	<b>4,700</b>	△555	△10.6
当期純利益	3,204	<b>3,100</b>	△104	△3.2

セグメント別				
	2017年3月期	2018年3月期 (予)		
	実績 (百万円)	実績 (百万円)	差額	前期比(%)
<b>産業機器関連事業</b>				
売上高	10,680	<b>10,370</b>	△310	△2.9
営業利益	1,828	<b>1,430</b>	△398	△21.8
<b>電子機器関連事業</b>				
売上高	16,452	<b>17,850</b>	+1,397	+8.5
営業利益	3,314	<b>3,260</b>	△54	△1.6

**半導体業界は好調を維持し、過去最高の売上高となる見込**

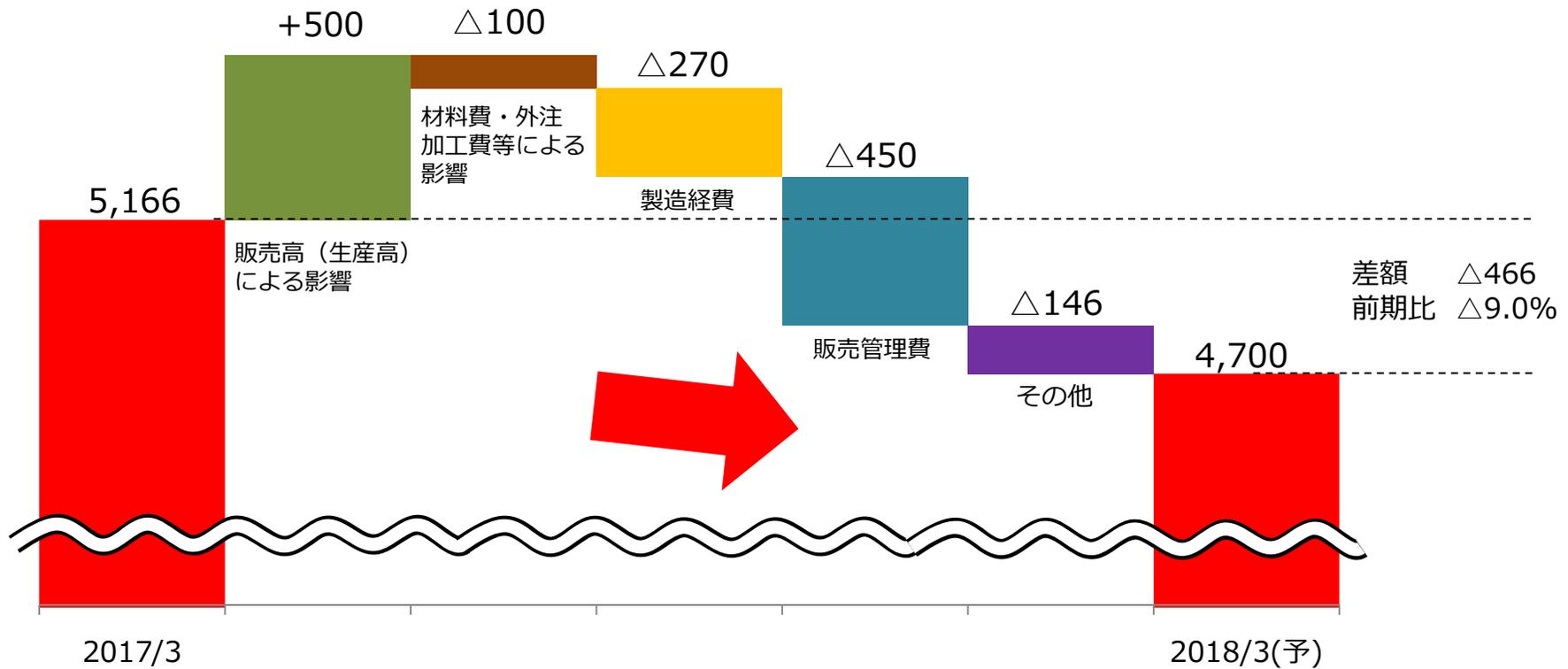
(単位：百万円)



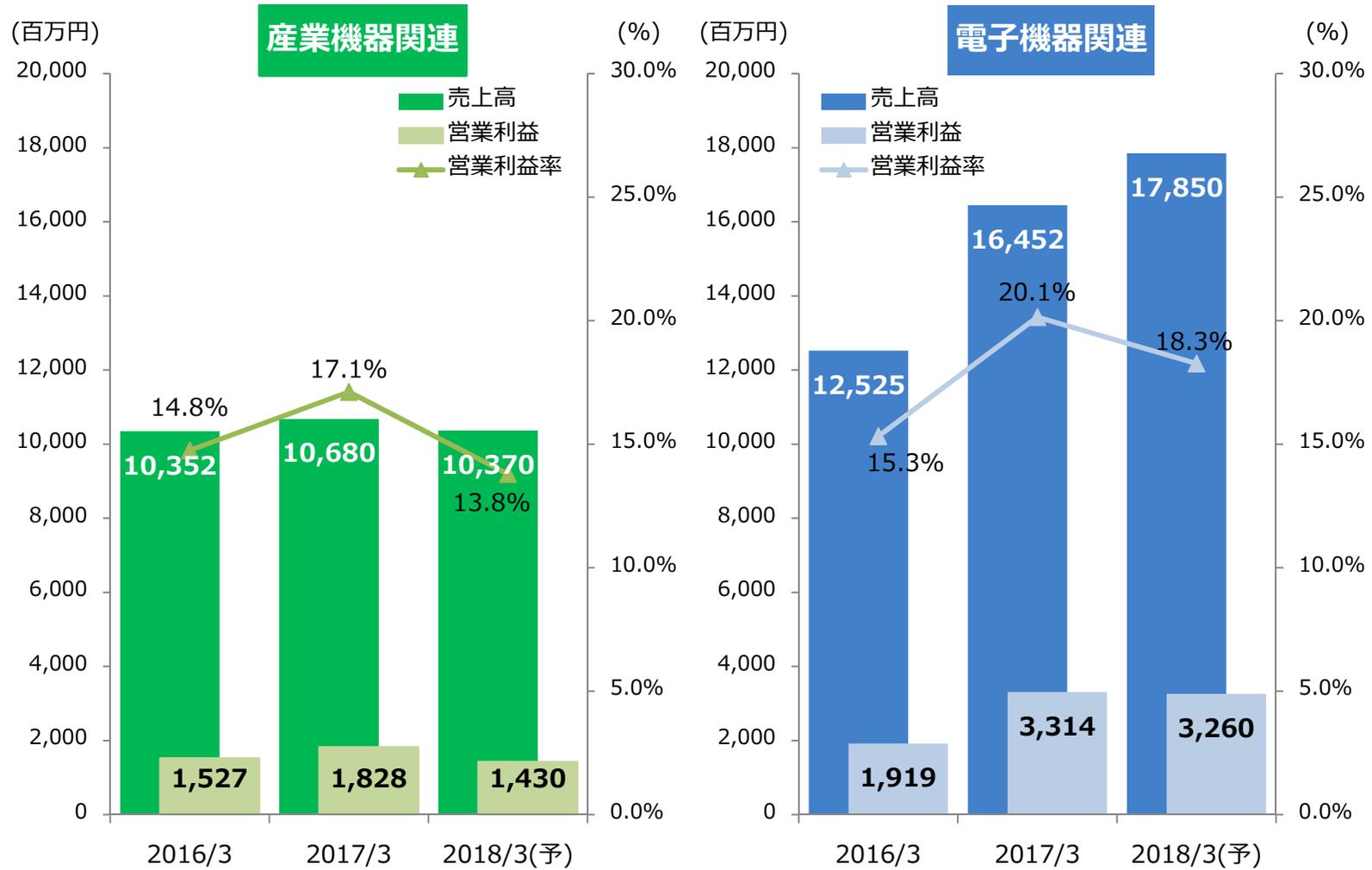
# 営業利益の増減要因 (2018年3月期通期見通し)

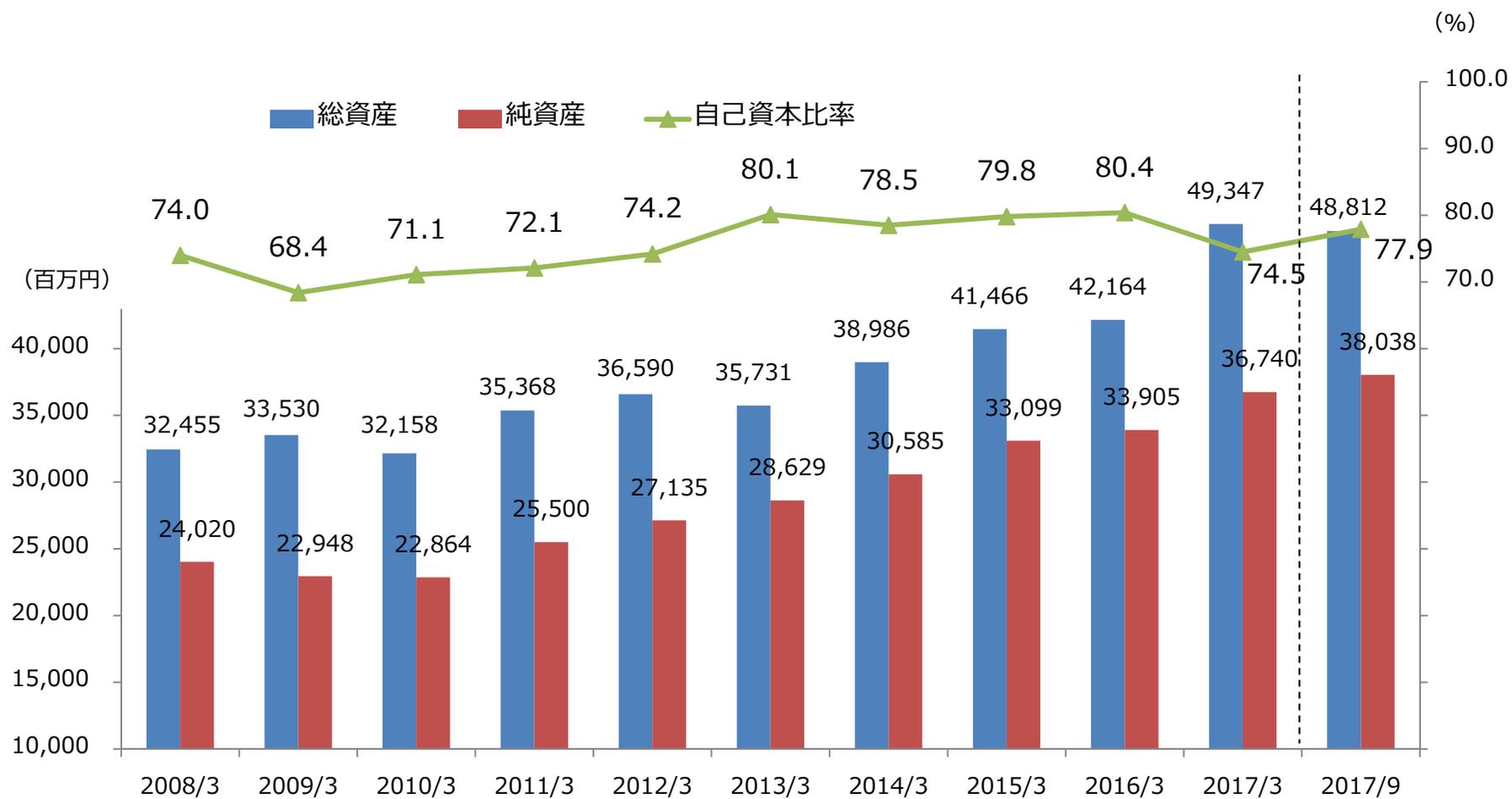
## 設備・研究開発等への積極投資により、若干の減益となる見込

(単位：百万円)

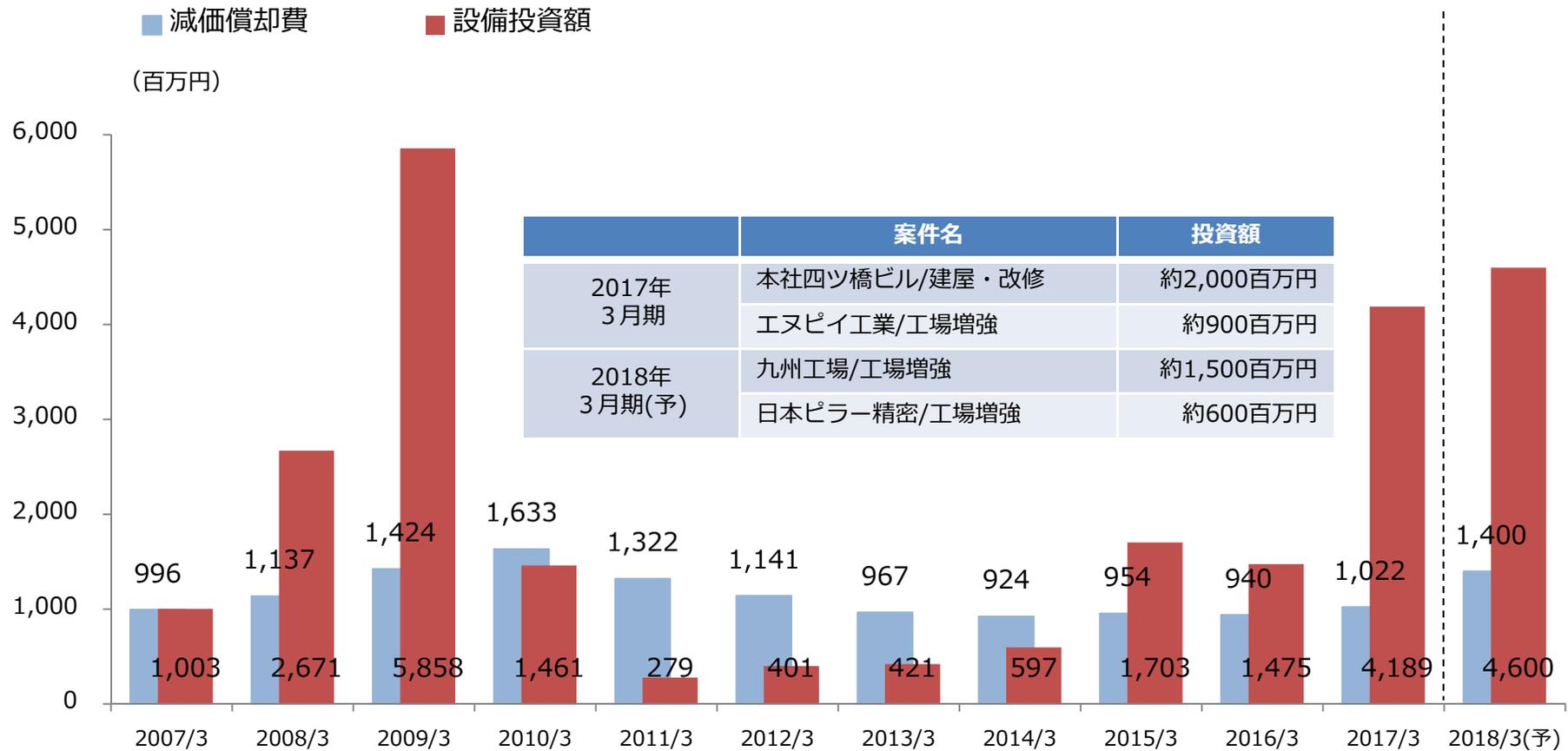


# セグメント別 売上高・営業利益推移 (2018年3月期通期見通し)

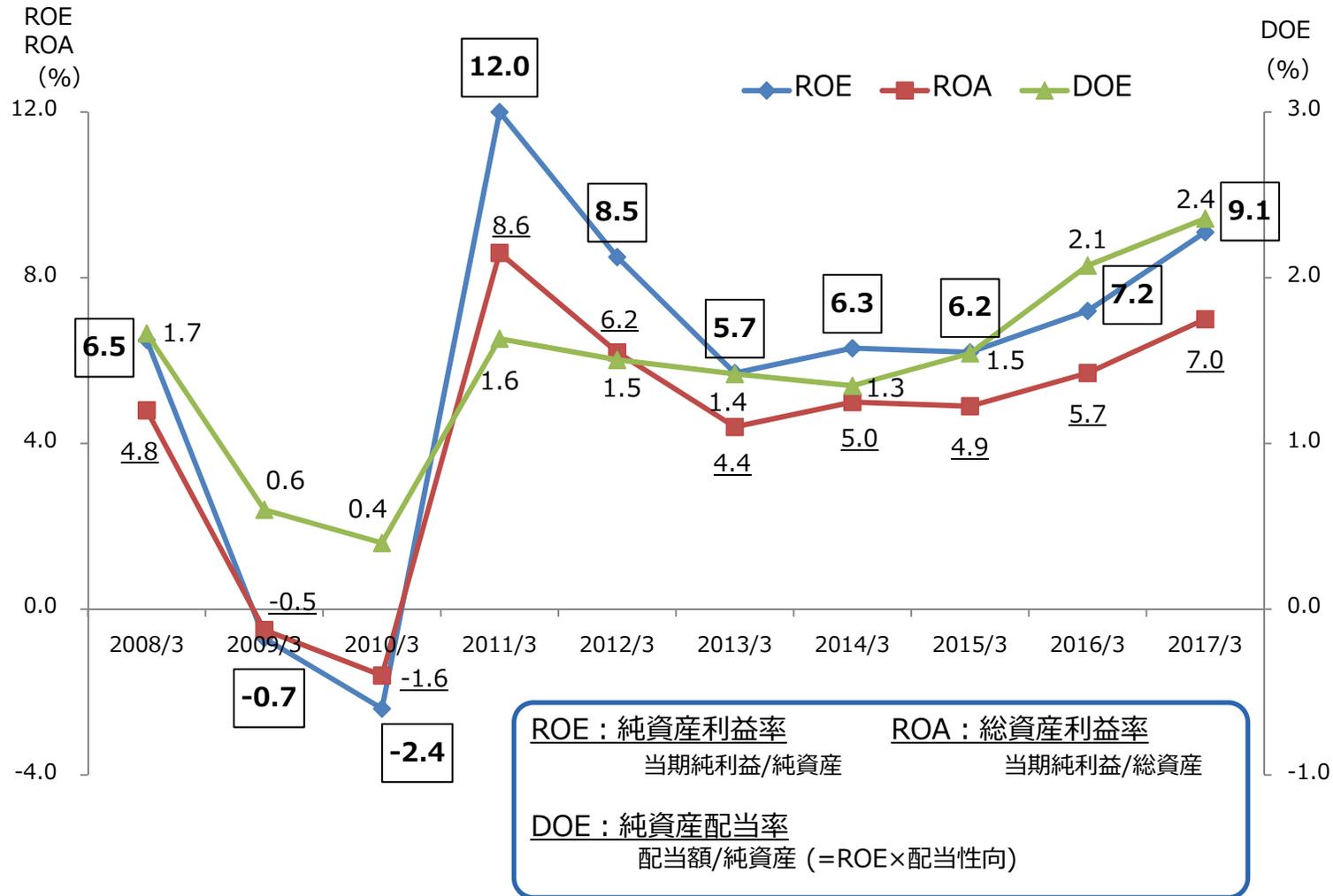




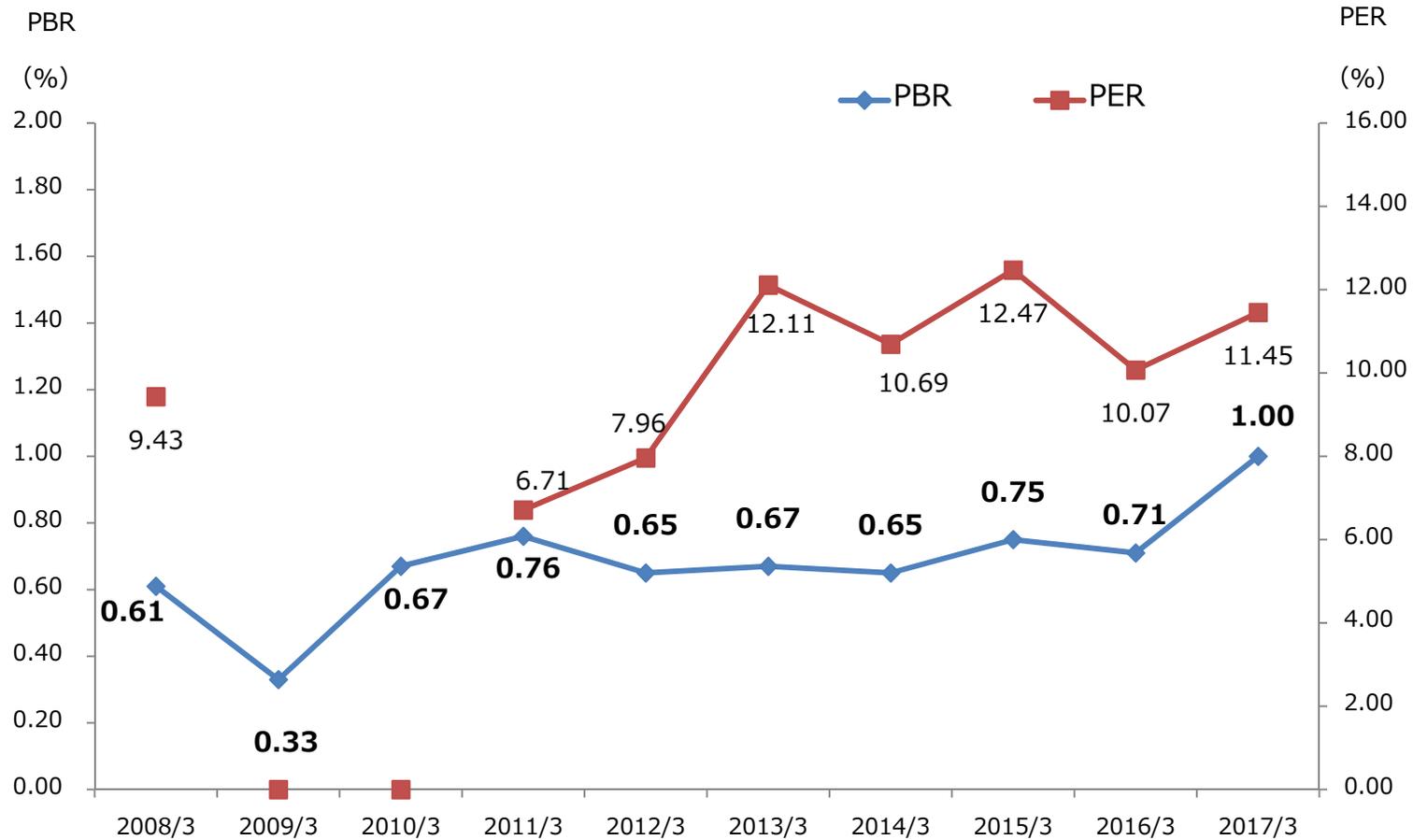
# 設備投資・減価償却費の推移



# 主な財務指標(ROE・ROA・DOE)



# 主な財務指標(PBR・PER)

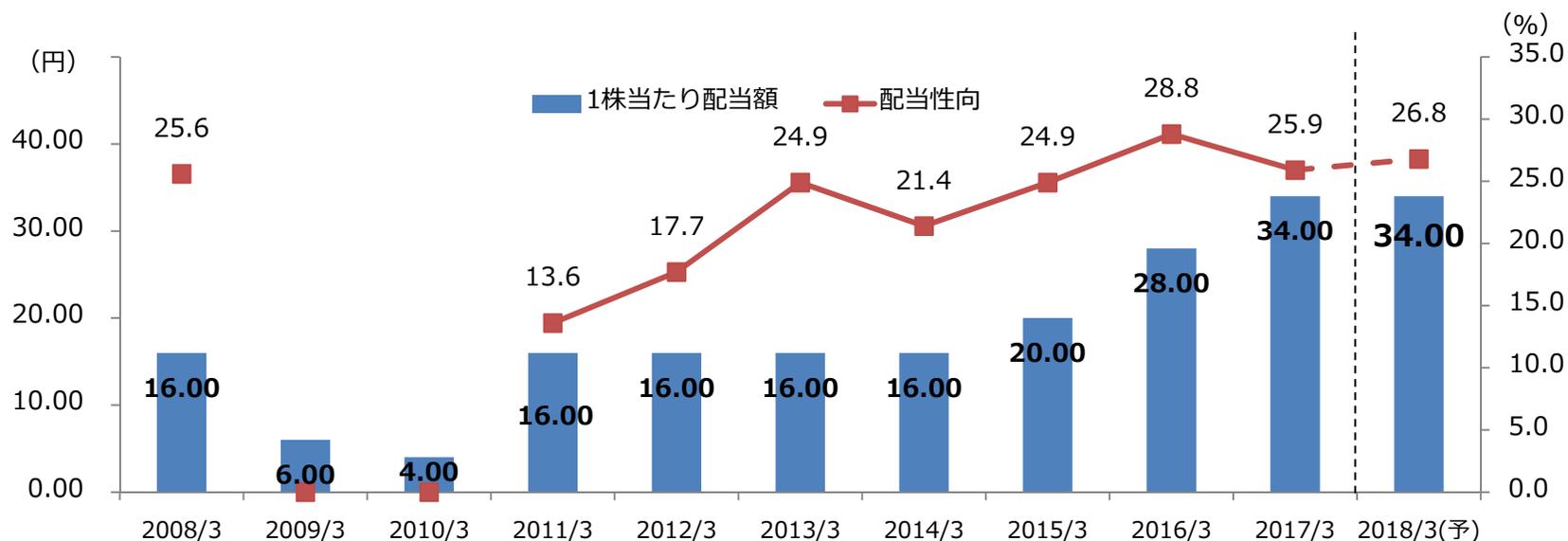


**PBR : 株価純資産倍率**  
株価/1株あたり純資産

**PER : 株価収益率**  
株価/1株あたり当期純利益

## 株主様への還元方針

当社は、株主の皆様への利益還元を経営上の重要課題の一つとして位置付け、安定的かつ継続的な配当と配当水準の向上を努めることを基本方針としております



### 株主優待



#### QUOカード 1,000円分

毎年3月31日現在にて、当社株式100株(単元)以上保有されている株主様に贈呈

## 1. 事業概要、決算ハイライト

## 2. 2018年3月期第2四半期/決算概要 および 2018年3月期/業績見通し

## 3. 中期経営計画「BTvision19」について

当社では、持続的な企業価値の向上を図るため、2017年度より3カ年の中期経営計画「BTvision19(ブレイクスルー ビジョン イチキュウ)」を策定しております。

## 名称

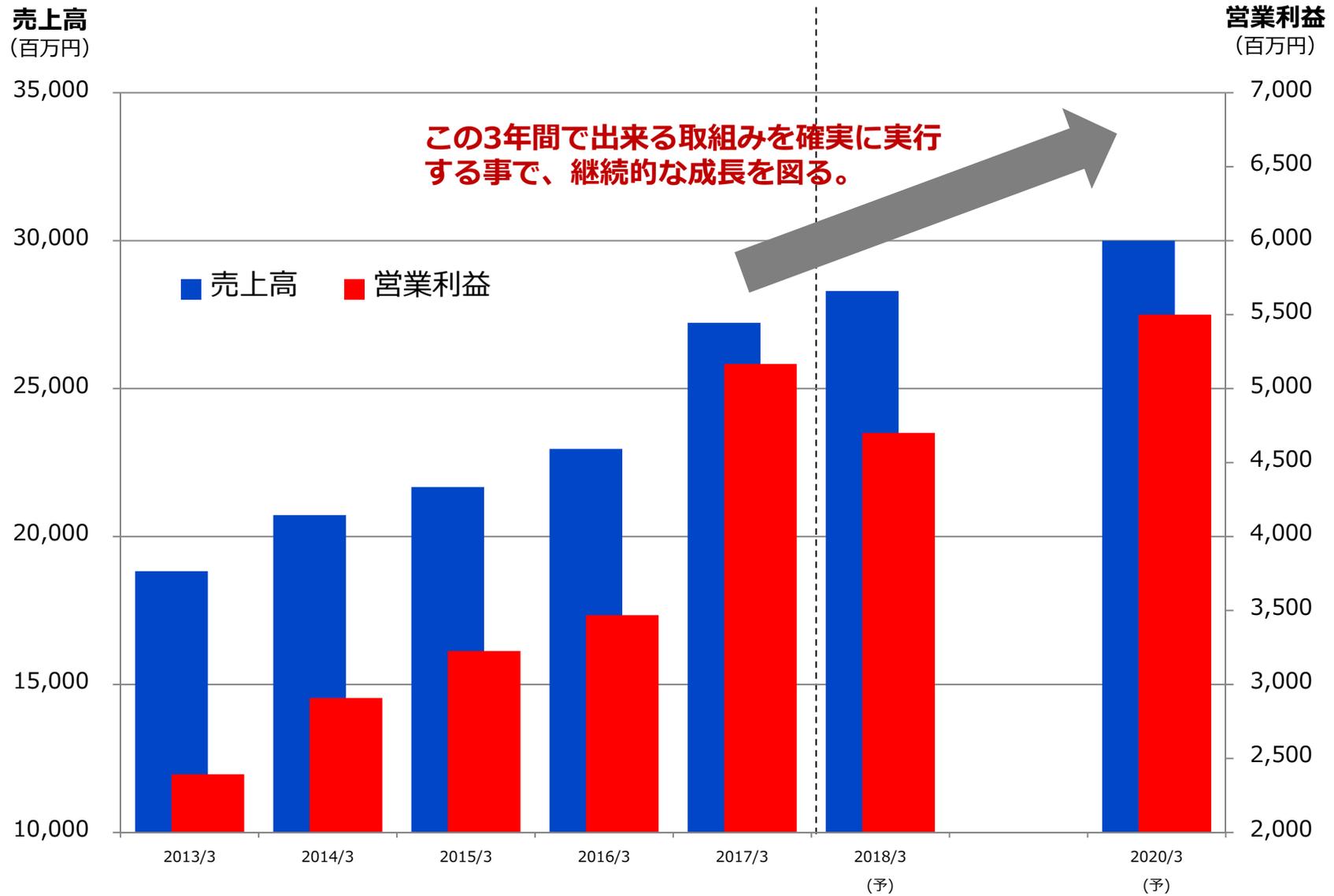
# BTvision19

～ 省資源と安全でクリーンな地球社会に貢献します ～

Breakthroughは、「突破」「突破する」「打ち勝つ」「進歩」「躍進」などの意味を持ちます。

中期経営計画「BTvision19」には、目まぐるしく変化を遂げる市場環境の中で、持続的に企業価値の向上を図るべく成長し続けるために、

**あらゆる既成概念(プロセス・技術開発・コスト)を突き破って躍進する**  
という意味が込められております。



## 計数目標

		BTvision16	BTvision19					
		2016年度	2017年度 公表予算	進捗率	2019年度	2016年度 対比		
						差分	増減率	年率
連結	売上高	27,225	28,300	94.3%	<b>30,000</b>	2,775	10.2%	3.3%
	営業利益	5,166	4,700	85.5%	<b>5,500</b>	334	6.5%	2.1%
	当期純利益	3,204	3,100	88.6%	<b>3,500</b>	296	9.2%	3.0%
	ROE	9.1%	8.2% <上期暫定>	-	<b>8.0%以上</b>	-	-	-

\*3年平均：7.5%(14-16年度)

## 基本方針

## 企業競争力の強化

生産性向上への取組み推進、並びに効果的な設備投資を行う事で、より利益を創出出来る強固な経営基盤を構築し、更なる企業競争力の強化を実現する。

## グローバル事業の推進

市場のグローバル化への追従を図るため、「販売ネットワークの構築」「製造拠点の拡充」並びに「人材育成」を行い、グローバル事業の推進を図る。

## 新規事業の創出

新製品・新市場・新用途等「新」をキーワードに、新規性の高いビジネスへの積極的な取組みを行い、産業機器関連事業、電子機器関連事業に続く第3の柱を構築する。

## 人材育成

グローバル化教育を中心に、ピラーの継続的成長に貢献出来るリーダーシップ、並びに幅広い視野と知見を持った人材育成を実施する。

上記基本方針に基づき、この3年間で出来る取組み・施策を確実に実行する事で、強固な経営基盤を築き、継続的成長が出来る企業を目指す。

成長戦略

基本方針

企業競争力の強化

生産性向上への取組み推進、並びに効果的な設備投資を行う事で、より利益を創出出来る強固な経営基盤を構築し、更なる企業競争力の強化を実現する。

生産性向上の推進

・自動化、内製化、部品標準化等の推進

三田工場再構築

増産体制の確立

・クリーンルーム拡張等

生産展開

基本方針

新規事業の創出

新製品・新市場・新用途等「新」をキーワードに、新規性の高いビジネスへの積極的な取組みを行い、産業機器関連事業、電子機器関連事業に続く第3の柱を構築する。

流体制御技術の  
リーディングカンパニー  
としての地位を確立

マーケット展開

高付加価値製品の開発

・既存事業向け製品の更なる技術革新  
・免震製品、ミリ波レーダアンテナの開発推進

市場最先端ニーズの把握

・主要客先との関係強化(技術交流推進等)

販売網の整備

受託成形品の受注拡大

医療関連市場への参入(CS)

修理ビジネスの強化

・販社機能の強化、短納期対応

## 成長戦略

### 基本方針

### グローバル事業の推進

市場のグローバル化への追従を図るため、「販売ネットワークの構築」「製造拠点の拡充」並びに「人材育成」を行い、グローバル事業の推進を図る。

### 基本方針

### 人材育成

グローバル化教育を中心に、ピラーの継続的成長に貢献出来るリーダーシップ、並びに幅広い視野と知見を持った人材育成を実施する。





## ご清聴いただき、ありがとうございました。



- 本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。  
こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
- 将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標数字や予想数値と大幅に異なる可能性があることをご留意ください。
- 本資料は情報の提供を目的とし作成したものであり、本資料によって何らかの行動を勧誘するものではありません。